

江南市地域福祉計画策定委員会 議事要旨

会議名	平成 29 年度 第 4 回 江南市地域福祉計画策定委員会	
日時	平成 29 年 9 月 26 日（火） 午後 2 時～	
場所	江南市役所 第 3 委員会室	
出席者	委員	石井 勇男、岩根 佐代子、倉知 榮治、柏原 正尚、澤野 康樹 永田 幸子、丹羽 義嗣、三ツ口 文寛
	市職員	丹羽 鈺貢、貝瀬 隆志、平松 幸夫、大池 慎治
	社会福祉協議会職員	小塚 昌弘、福田 和広、伊藤 光洋、宮本 清隆
欠席者	奥村 勝次、坪内 三、内藤 昇彦、名倉 尚之	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施策体系の見直しについて 2. 重点プロジェクトについて 3. 地域福祉計画・活動計画骨子案について 4. その他 	
資料	資料 1 江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画施策体系（案） 資料 2 重点プロジェクト打ち合わせ記録 資料 3 江南市地域福祉計画（骨子案） 参考資料 1 策定部会議事録 参考資料 2 策定会議議事録	

◆ 会議結果 ◆

1. 施策体系の見直しについて

- ・資料 1 に基づき、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所（以下「ジャパン総研」より説明がありました。続いて、参考資料 1、2 に基づき、事務局より説明がありました。
- ・澤野委員より、基本目標 2-1-2 「担い手の裾野の拡大」はイメージがわきにくく、基本目標 3-2-1 「総合事業の拡充」の「総合事業」についても、イメージしにくいというご意見をいただきました。
- ・副会長より、基本目標 4・5 を合わせて「安心・安全の環境をつくる」とあるが、「環境」という言葉は意味が広すぎるのでは、というご意見をいただきました。環境というと、市役所にも「環境課」があり、ゴミや公害のイメージなので、生活環境なら「生活」を、福祉環境なら「福祉」を入れるなりした方が柔らかくなるのではとのことでした。
- ・会長より、基本目標 2-2-2 に「団体活動の支援」とあるが、「団体」という表現はこのままでよいかというご意見をいただきました。今の地域福祉の流れでは、

多様な主体を入れていこうというのがあるが、これだと既存の団体だけというイメージなので、もっとよい表現があると未来に向かって広がると思うとのことでした。「環境」や「担い手」についても人によって捉え方が違うので、全体的に整理統合されたことで広がりが出たのではとのことでした。

- ・ジャパン総研より、「担い手の裾野の拡大」について、言葉がわかりにくい、色々な意味にとれるので表現として適切でないとのご意見いただいたが、「担い手の裾野の拡大」については「多様な人が参加できるきっかけづくり」というような、表現に変更していきたいとのことでした。そして、「総合事業」は浸透していないが、「総合事業の拡充」という固有名詞を言い換えるのは難しいので、検討させていただきたいとのことでした。また、「環境」という表現は「こころ」「人」「仕組み」「環境」というステップアップをイメージしているとのことでした。
- ・事務局より、見た目のインパクトを重視させ、「こころ」「人」「仕組み」「環境」の4つキーワードを全面に押し出していきたいという考えがあるとのことでした。基本目標として4つは横並びになりながら、縦並びのイメージもあり、「こころ」ができあがったら地域福祉を進める「人」につながり、人が増えると地域福祉の「仕組み」が増え、仕組みをつなげていくことで「環境」ができあがるという、シンプルな4つの柱をたてたという検討の経緯があるとのことでした。
- ・会長より、聞いた方はわかるが、ぱっと見た目はストーリーがわかりにくいということなので、施策体系をもう少しわかりやすくするとよいとのご意見をいただきました。地域福祉は総合計画に連動するイメージだが、あまり広げると具体性が弱くなったりするので、いままでの計画との親和性は大事であり、表現としては、こういうニュアンスについての説明があるといいと思うとのことでした。
- ・倉知委員より、基本目標1-1-2「福祉教育の推進」はイメージができるが、「担い手の裾野の拡大」というのはパッとイメージできない、他のものは想像つくが、ここだけ想像つかないとのご意見をいただきました。
- ・会長より、「施策の方向性」と「具体的な施策」の文章が重なりすぎると、わかりにくいと思うとのご意見をいただきました。「担い手」という言葉が、施策と方向性の両方にあるので、具体的に取り組まれているものをイメージできるとわかりやすいが、これから広げていこうとするなら、もっとよい表現を考えてもらいたいとのことです。そして、「総合事業」についても、既に事業として成り立っているもので固有名詞がついてしまっているので、わかりづらいとなると浸透していないということだと思うとのご意見をいただきました。また、「総合事業」は、言葉自体は前からあり、行政の施策として似たような言葉が出てくるので、浸透させるのも福祉の心を育むうえでも重要であり、「総合事業」というのは介護保険の仕組みが中心となって、そこから派生してきたものであるため、地域福祉計画としての性格でいうと、その親和性をどこまでもっていくかは、説明が必要かもしれないとのことでした。さらに、総合事業が拡充するのも多様な

主体がないと成り立たない仕組みなので、ここに入っていると思うが、それも知らないで見方が違うのでわかりづらいとのご意見をいただきました。

- ・岩根委員より、安心安全だと何でも入ってきてしまうため、安心安全な「何の」環境をつくるというポイントが入ると、環境という意味も狭まってわかりやすくなるのではないかとのご意見をいただきました。
- ・副委員長より、「環境」を平仮名にすれば柔らかくなることのご意見をいただきました。「こころ」「ひと」「しくみ」も平仮名で、総合計画でも「地域」を漢字と平仮名で使って違う意味合いで表現しているところがあるのでどうか、とのことでした。
- ・事務局より、ここについては「環境」という言葉を使うかどうかも含めて再度検討しますとのことでした。
- ・会長より、「こころ」も含めて平仮名にするなら、統一した方がよいことのご意見をいただきました。

2. 重点プロジェクトについて

- ・資料2に基づき、ジャパン総研より説明がありました。続いて、参考資料1、資料2に基づき、事務局より説明がありました。
- ・丹羽委員より、3番目のところで「安心安全」を重点から外したのはなぜかというご質問がありました。それを受けて会長より、あえて3つと1つを分けた理由があるのかというご質問かと思いますが、基本目標の順番でも4つめは違うイメージでということだったかと思うので、「こころ」「ひと」「しくみ」の3つは横並びで、下支えがあるというイメージでしょうかのご意見をいただきました。また、あえて基本目標4のみ切り離すのではなく、4つあるので4つ串を刺すプロジェクトがあってもいいのかなという思いもおありなのかなとのご意見をいただきました。
- ・ジャパン総研より、基本目標それぞれに重点化してやっていくものを位置づけようかという話も出ていたが、市として計画のどこに重きをおくかを考えた時に、やはり「ひと」「こころ」「しくみ」に力をいれていきたいという話があったとのことでした。安心安全のところに重点施策をおくこともできるが、無理にバランスをとるのもどうかということで、3つになったので、「安心安全」だけレベルが落ちたように感じるご意見もあるかもしれないとのことでした。
- ・丹羽委員より、「安心安全」という言葉に、地域生活という言葉があればわかると思うことのご意見をいただきました。
- ・会長より、「安心安全」は広い意味で使われるので、「安心安全な生活の…」とか言葉を入れるといいかもしれないことのご意見をいただきました。また、「専門職の養成」のところが確かにわかりにくく、新たに担い手を育成するわけではないということだが「養成」というと新たに育てるイメージがあるとのことでした。

また、「人づくり」「専門職養成」は、住民の担い手をつくるということと、専門職の担い手の質を高めるということの両方の意味があり、「子どもも大人も福祉を学び実践しよう」というところに、専門職も入るイメージかもしれませんが、やはり地域の方々を意識した福祉教育のイメージが前面に出ているため、「専門職の方の意識を変える」ということもわかりやすくなるよう、表現を検討した方がよいとのご意見をいただきました。

- ・永田委員より、専門職の養成は、1～4の中のどこに入るのかというご質問がありました。それを受けて事務局より、新たに専門職を育成するわけではないので、「養成」ではなく「連携強化」というような表現にしていけるとすると、3番にある「人づくりと仕組みづくり」の中間くらいに位置するかと思っているとの回答でした。
- ・永田委員より、部会の議事録に載っているような表現がよいと思うので、「専門職の方に地域のことを知ってもらおう」というような表現の方が、わかりやすいと思うとのご意見をいただきました。
- ・会長より、地域包括支援センターとか福祉の専門職の方は当たり前だけど、それ以外の専門職の人も地域福祉に目を向けてほしいということを表示されているのでしょうか、というご質問をいただきました。それを受けて事務局より、福祉の専門職である病院のケースワーカーや地域包括支援センター、社会福祉協議会、我々も含めて、地域に出て行って実情を理解して、そこにいるキーパーソンと関係をつなぐというところまでできていない状況にあるため、地域福祉を進める人をつくるという部分では、専門職の人が、地域にどのような社会資源があるかを理解するというのが大切だと思っているとの回答でした。
- ・会長より、「人づくり」というのは、単に住民の担い手を増やしていくだけではなく、色々な人を育てるという意味合いであるか、というご意見がありました。
- ・事務局より、福祉課の課長として仕事をしていて、福祉を担っている専門職も孤立していると感じるとのことでした。一人で抱え込んでしまっているという状況はよくあるので、そこで地域で手助けをする方たちとのつながりがあると、仕事も変わった展開が見えてくるのではないかと感じるので、そこを計画の中で設定して6年間で強化していきたいと思っているとのことでした。
- ・会長より、全体では専門職同士の連携があるかもしれませんが、エリアごとでも連動していけることが理想であり、そういった意味合いももって、ご発言いただきたいとの、ご意見をいただきました。安心安全のところも、うまく兼ねていけると良いとのことでした。
- ・永田委員より、「環境」のところにも地域の見守りも入るのか、というご質問をいただきました。それを受けて会長より、重点プロジェクトと銘打ったときに、上に出てくる顔が仕組みだったり人だったりするので、そこだけで完結しないで「重点プロジェクト」となっていて他にも連動するということである、とのご意見をいただきました。

- ・永田委員より、24 ページのところをみると、「見守り体制の強化」とあり、現時点でも力を入れているところだと思うので、環境は全部のことを入れないとしても、ここだけは入れると綺麗にまとまると思う、との意見をいただきました。
- ・事務局より、市役所が主導してやっているような独居老人の見守りなどは「環境」だと思うが、小地域で行われているような、近所づきあいでの見守りの部分は「仕組み」に入ると思うので、そこの表現も考えたいと思う、とのご意見をいただきました。
- ・岩根委員より、「環境」というと全部を網羅する輪のような感じがして、どれともリンクしていくものが「環境」なので、重点として挙げるのは難しいのではと感じました、とのご意見をいただきました。
- ・事務局より、心を育むというところがまずは基本目標の第一段で、地域住民の地域福祉に対する心が醸成されてくると、これも環境になる、とのご意見をいただきました。また、70 ページの重点プロジェクトの設定というところでは上に、「こころ」「ひと」「仕組み」と3つならべて、下の段で「環境」の部分はがすべての方向に向かって矢印が向いているので、岩根委員がおっしゃるように「環境」というのは上の3つのすべてに関わるためにこういった絵にしている、とのことです。
- ・会長より、図式化したり言葉を選んで書いてあるとズレが生じることもあるかもしれないので、今回出されてご議論いただいたところを修正して、今現在の江南市の地域福祉計画の策定として骨太になっていくとよい、とのご意見をいただきました。

3. 地域福祉計画・活動計画骨子案について

- ・資料3に基づき、ジャパン総研より説明がありました。続いて、参考資料1、資料3に基づき、事務局より説明がありました。続いて、参考資料2、資料3に基づき、事務局より説明がありました。
- ・澤野委員より、23 ページの理念で「選べる」「選ばれ続ける」と書いてあるが、この意味がわからない、とのご質問をいただきました。これを受けて事務局より、多様な暮らしを選べる生活都市とあり、最後に「選ばれ続けるまち」という表現をしていますが、この計画の上位にある第6次江南市総合計画の目指す都市の将来像として案の中に載っている表現をそのまま引用している部分である、とのご意見をいただきました。多様な暮らしを選べる生活都市というのは、子育て中の方や、高齢者・障害者も安心して地域で暮らしていける、そういった多様な暮らしの仕方を選べる都市を目指す、と総合計画で書いているとのこと。それから、生活産業文化の魅力があふれ選ばれ続けるまちというのは、転入の方も、ずっと住んでおられる方も、江南に住んで良かったと思えるまちをつくるという、総合計画の基本理念の表現を引用しているとのこと。

- ・澤野委員より、他のまちでも、「自分のまちはこういう福祉政策をしているので是非来てください」というようなのをやっているが、自分のところさえよければいいのかと強く感じる、とのご意見をいただきました。また、「選べる」ことについては、多様な人がいて多様な暮らしがあるのは当たり前であり、選べない現状が江南市にあるということだと思うので、ではなぜ選べないのか、どう解決するのかというのは示されていく必要があると思う、とのご意見をいただきました。
- ・会長より、「選ばれる」というのは受け身で、行政が中心となった計画だからということであるが、文章に主語が隠れているので余計にわかりにくいと思われたのではないかと、とのご意見をいただきました。施策のところに、市民の目線と市の取り組み、社会福祉協議会の取り組みが書いてあるのはよいが、市民から見るとあちこちに出てくるし、行政の方もとびとびで見ないといけないので、わからなくなると思う、とのご意見をいただきました。全体を網羅して1冊にするとなったら、どこかを削って、どこかを重視するとなると思う、とのことでした。
- ・永田委員より、施策体系の「こころを育む」というのと、重点ポイントの「こころを育む」の相関性についてのご質問をいただきました。また、新しく目標設定してやっていくのが重点プロジェクトという捉え方でよいと思うが、前からずっと読んでいくと、突然重点プロジェクトが出てきて、よく見ると少し内容が違うかなという印象があり、施策の中から大きく切り取って載せたということではなく別のもという捉え方でよいか、とのご質問をいただきました。これを受けてジャパン総研より、基本目標で載せている施策や取り組みは網羅的であり、文章としても比較的大きな表現としているが、それについて具体的にどういうことをやるのかを載せているのが重点プロジェクトになる、とのことでした。
- ・永田委員より、31 ページの「福祉教育の推進」のところに「児童生徒が福祉に関心を持つ…」とあるが、71 ページでも、しっかり目標設定をしてやっていくというようなニュアンスに感じる、というご質問をいただきました。これを受けてジャパン総研より、もちろん淡々とやっていくべきものも載っているのですが、重点プロジェクトに載っているのは、特に力を入れていくものです、とのご意見をいただきました。
- ・会長より、わかりやすいのは、重点プロジェクトを前に持ってきて、それだけではなく網羅的は、地域福祉計画というのはこれだけしっかりとある。ただ皆さんにこの3つは必ず意識してください、というインパクトを与えるためには前にあった方がよい、というご意見をいただきました。また、重点プロジェクトに特に関連するものについては印をつけておくとわかりやすいかもしれません、とのことでした。
- ・永田委員より、重点は3つあるが、色々なことが関係している、というふうだったらよいが、施策の中の一つだけを取り上げて載せるという話だと、それについてだけ力を入れるんだと意味合いが変わってきてしまう気がする、との意見をいただきました。

- ・会長より、地域福祉計画は初めてですが、活動計画はこれで3回目、今まで取組まれたもので芽がでてきたものを飛躍的にやっていくものと、ゼロからもう一回やるものと、あるいは今のまま頑張るものと、濃淡がわかりにくいと思う、とのご意見をいただきました。また、現状とか状況という表現のところは、江南市が目指すべき像があって、それに対して現状はこうで、ギャップを埋めるためにこういう取り組みをしますというのが見えると違和感がないが、現状と状況という言葉の表現を変えるだけで、意味合いが変わってくる、とのことでした。
- ・ジャパン総研より、重点プロジェクトと基本目標の関係について、別物なのかというご指摘があり、相関関係がわかるものがあればという話と、重点プロジェクトを基本目標より前に出して強調したらいいという話の2つでよいか、との確認がありました。
- ・会長より、それぞれに細かい内容が入っていた後に、重点プロジェクトがあると、別にやるように見えてわかりにくいので、重なっている部分がわかるようにしてほしい、とのご意見がありました。
- ・永田委員より、重点プロジェクトが色々な課題もひっくるめてあるものなのか、施策が並んでいる中から一つだけ取り上げて力を入れるのが見えにくかったので、前者であるなら、示し方は今のままでいいが、施策と横並びで新しく施策をつくったとなると重複して読み取る人もいると思う、とのご意見をいただきました。
- ・会長より、いくつかの重点プロジェクトを絶対落とさずにやります、とすることによって全体も底上げされる、とのご意見をいただきました。
- ・事務局より、見せ方は検討したいと思います、とのご意見をいただきました。
- ・岩根委員より、23 ページの基本理念のところの表現で、「みんなで支える」「みんなで育む」という言葉はよいが、「江南の」幸せづくりとなると、主役が江南になってしまって、この幸せというのは各個人のものだと思うので、ここの表現は変えたいと思う、とのご意見をいただきました。これを受けて事務局より、意図としては各個人の幸せ、江南市民一人一人の幸せを結集した意味で「江南の幸せ」という表現を使い、できるだけ「幸せ」というシンプルな言葉を目指した結果であるとのことでした。
- ・会長より、23 ページの他の案にあるのは、意味合いとしては副案なのか、どういう位置づけですかというご質問をいただきました。これを受けてジャパン総研より、言いたいことは「みんなでやっていく」ということと、「みんなの幸せを増やしていく」というようなことであるが、ここの表現は計画のスローガンにもなるものであるため、できるだけ多くの人にとってわかりやすい表現とするために2案作成した、とのことでした。
- ・会長より、地域福祉を未来に向かって、今よりも幸せが実感できるようなものをつくっていきましょうというイメージですが、幸せの実感の度合いが人によって違ったりもしますので、「みんなでつくっていく」ということと「幸せ」という言葉が重なれば一番いいと思います、とのご意見をいただきました。

- ・丹羽委員より、先程の「選ばれ続けるまち」について、先日、江南市も建て売りが増えて人が増えているのに、人口が変わらないのはどういうことかという話になり、江南市に魅力がないからという結論になった、とのご意見をいただきました。また、住宅が増えて新しい世代が来て、新しい人生を築き上げようとする人たちにとって魅力のあるまちではないんだということで、「安心安全」という点では江南は優れていると思うが、魅力がないという点では同感で、それがどこかわかれば答えが早く見つかるような気がする、とのことでした。
- ・会長より、生活の中で急に不安になったりするときに実感する仕組みがあることも大切で、福祉で関わっている方達はわかるが、関わっていない時はわからない、とのご意見をいただきました。
- ・丹羽委員より、病院、産婦人科もあり、医師会もしっかりしているし、そういう意味でも非常に安心して住めるまちだと思う、とのご意見をいただきました。また、これだけのことをすべてやろうと思うとお金がかかると思うので、しっかり見極めて、もっとポイントを絞り込んでもいいと思う、とのことでした。
- ・会長より、地域福祉計画が総合計画とどれくらい連動できるか、他の部署とどれくらい横でつながれるか、全体として地域福祉の考えが浸透して、住みやすいところになるというのが一番のポイントなので、この方向性がわかりやすい表現になるとよいですね、とのご意見をいただきました。
- ・丹羽委員より、子どもたちが小学校・中学校で過ごした江南市が、心からいいまちだと思えば、市外に出てもいずれは必ず帰ってくるし、このまちに住みこのまちを維持したいと思ってくれるはずなので、無理して福祉教育とかしなくても、とにかく住んでよいまちということでやっていけば、意外と答えが出てくるような気がする、というご意見をいただきました。
- ・会長より、現在、福祉としてやらなくてはいけないこととして、地域みんなで支え合っていく仕組みをつくっていかなくてはならないということが国全体で言われているので、それをいかに江南バージョンにもっていけるかというのが課題である、とのことでした。

4. その他

- ・事務局より

①次回の会議日程について

11月20日（月）午後から第5回を開催予定

—終了